

ごみの行き先確認バスツアー 考えよう・真庭の未来!



分別したごみがどのようにリサイクルされているか確認



ごみの焼却処理について学習



プラスチックごみは固形燃料にリサイクル

11月17日、「ごみの行き先確認バスツアー」が開催され、市内の親子など29人が参加しました。このツアーは普段見ることができないごみのその後を知ってもらい、課題であるごみの減量化や再資源化などについて一緒に考えてもらうため、環境課が企画しました。参加者は、市内のクリーンセンターまにわと一般廃棄物最終処分場、島根県松江市にあるプラスチックごみの資源化を行う三光(株)江島工場を見学し、市内のごみ処理方法や資源化について学び、ごみの分別や資源回収など、家庭での取り組み方について考えていました。

10月28日、真庭市消防本部が外国人のための消防体験会を開催しました。就労などで真庭市内に滞在している多くの外国人に、災害への備えや心構えを理解してもらい通報などへの不安を解消することが狙いです。中国やベトナムなど8カ国33人の参加者は、15カ国語に対応した119番通報体験や翻訳アプリを使用した救急体験のほか、防火衣を着て放水体験を行うなど、救急・消防活動への理解を深めました。

外国人のための消防体験会 外国人を地域の一員に



翻訳アプリを使用し状況を確認する救急隊



ジャージー牛は小学生にも大人気

10月26日、湯原小学校で児童がジャージー牛とのふれあいなどを体験する「学校へ行ってミルク」が行われました。この企画は、蒜山イキイキ酪協議会と市内の小学校との連携で毎年開催されています。児童たちは、乳搾り体験や聴診器で牛の心音を聞く体験、クイズが出題される紙芝居を通じて、ジャージー牛について理解を深めたり、ジャージー牛乳本来のコクと風味が楽しめる低温殺菌牛乳を試飲したりしました。

学校へ行ってミルク ジャージー牛とのふれあい体験



市政に関する動きの一部を紹介します

10/30 正しく理解し地域で支える

勝山文化センターで、認知症についての正しい知識や認知症の人と接するときの心構えなどを学ぶ認知症サポーター養成講座が開催されました。これまでに1万人以上の認知症サポーターが市内に誕生しています。



市長室から
こんにちは!

日本のあり方を考える ～海外視察を通して～

「百聞は一見に如かず」ということを、先月、全国市長会海外調査としてフィンランドとスイスを訪問して実感しました。

フィンランドでは2日間滞在し、高齢者福祉施設、教育施設(保育園、小学校、中学校を併設)を視察し、ヘルシンキ副市長、ピヒティ市長と懇談しました。また、駐フィンランド山本大使から2時間半に渡り欧州と現地について懇切に講和して頂きました。

スイスでも、ローザンヌ市のまちづくりの説明を受けた後、医学社会施設(高齢認知症患者施設)の視察、国際オリンピック委員会(IOC)の視察と講和という2日間の日程でした。

フィンランドは、北海道と同程度の人口(550万人)で、自然条件がかなり厳しく、また、スウェーデン、ロシア帝国からの支配を脱して1917年にやっと独立した「若い国」です。それにも拘らず、この国は100年間で「世界で最も貧しい国の一つから、最高の技術的専門知識をもつ世界有数の裕福な国へと変貌」し、国連の幸福度調査で1位になっているのです。消費税率は24%ですが、訪問した福祉施設、教育施設の雰囲気が兎に角「明るい」というのが強烈な印象です。

スイスのローザンヌ市は、人口15万人足らずの自治体ですが、レマン湖に面した歴史もある美しい国際都市で、地下鉄経営などを含めると、2,100億円の予算規模(大規模)を持っています。中立国であることを上手に活用してIOCや多数の国際機関を持っていることが豊かな国、地方を築く要因の一つになっているのでしょうか。

この視察を簡略に纏めるならば、両国とその自治体は、その置かれた条件を上手に活かしながら、頑張っているということです。

私たちも、有史以来の少子高齢化を未来志向で捉えて、日本国と真庭市の永続的な発展(SDGs)を目指していこうではありませんか。

詳細については、後日真庭市ホームページで公開します。ご覧ください。



輪になって交流する参加者

子育て応援講座 参加者同士でアドバイス

11月11日、中央図書館で「第1回子育て応援講座」が開かれ、市内の親子ら13組が参加しました。この講座は、真庭市家庭教育支援チームが初めて企画。さまざまなプログラムの中から、『読み聞かせ』をテーマにしたワークショップを実施しました。参加者は普段読み聞かせについて思っていることや困っていることなどをそれぞれ出し合い、お互いにアドバイスし合うなど、和やかな雰囲気の中で、交流を深めていました。



先輩起業家からアドバイスを受ける参加者

起業女子応援cafe 起業女子応援宣言

11月20日、MATSURIKASAVON工房で「起業女子応援cafe」が開かれ、市内で起業を考えている女性が参加しました。平成29年に市内で起業した株MATURIKA代表取締役の山形彩子さんを講師に、アンガーマネジメントコンサルタントの秋田智恵子さんをコーディネーターに迎え、参加者は起業に必要な知識やノウハウ、そして子育てしながら事業を行う苦労などを聞きながら交流を深めました。